

歩きたくなる城下町 谷村のみち

ウォーキングトレイル完成

トレイルとは・・・
 (人・動物が通ってきた荒野、山中の)小道や(動物・人・物が残した跡、足跡、手掛かり、形跡など)の意味です。歩行を楽しむ人のために、ルート設定や歩道と車道を分けて歩きやすく整備することです。

悠久のときを感じ

こみち
 歩く小径

天文元年(1532)小山田氏が中津森から館を移して以降、谷村は郡内の表舞台に登場し、江戸時代には秋元氏によって城下町の整備が行われました。現在も当時を偲ばせる町割りや寺社など、歴史を感じさせる多くの史跡や文化財が残っています。

市ではそんな歴史ロマンを感じ、思わず歩きたくなるような歩行者空間を整備しました。コースは文化財や芭蕉の句碑などを巡る3.8キロメートル。悠久の時を感じながら散策してみたいかがでしょうか。

芭蕉も愛した城下町

天和2年(1682)の暮れに起こった江戸の大火で深川の芭蕉庵も炎に包まれ、芭蕉は危うく難を逃れました。その時に芭蕉の弟子である秋元家老の高山伝右衛門繁文(俳号麿塙)のすすめで谷村に5カ月間滞在しました。エリアには次の句が刻まれた石碑が点在しています。

★松風の落ち葉か水の音涼し

場所 ③東漸寺

